

キノボリキヌキリグモ *Herbiphantes longiventris* Tanasevitch

【選定理由】

県内では、豊田市（旧稲武町）面ノ木園地と北設楽郡設楽町裏谷のブナ林に生息する。希産種で、極めて個体数の少ない種である。森林の伐採や開発等に伴う生息域の縮小で、さらなる個体数の減少が懸念される。



北設楽郡設楽町裏谷, 2007年9月15日, 緒方清人 撮影

【形態】

体長 3~4mm。頭胸部は褐色。腹部は細長く黄褐色。雄は頭胸部・腹部とも濃褐色である。歩脚は細長く、各節に黒色輪紋がある。

【分布の概要】

豊田市稲武町面ノ木園地と北設楽郡設楽町裏谷に生息する（緒方, 1996）。

国内では、北海道、本州四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

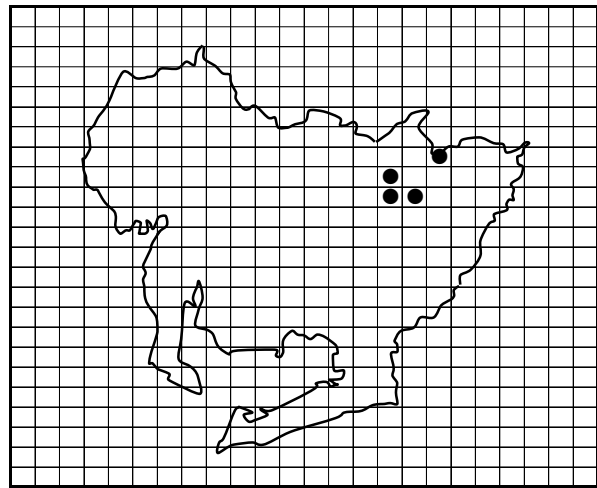
【生息地の環境／生態的特性】

寒地性のクモで、温帯林の樹幹に着生するコケ類の表面にシート網を張る。8~10月ごろ成体になる。

【現在の生息状況／減少の要因】

面ノ木園地では 2012 年 7 月に 1 頭だけ確認されたが、その後記録されていない。確実な生息地は段戸裏谷だけである。もともと個体数は少ない。さらに、最近の調査では、生息木になるような樹が少なくなっており、本種も減少傾向にあるものと思われる。

県内分布図



【保全上の留意点】

ブナ林の保全が望まれる。また、樹木の伐採は慎むべきである。

【特記事項】

別名キハダキヌキリグモと呼ばれる（新海, 2017）。

【引用文献】

緒方清人, 1996. 真正クモ類. 設楽町誌 自然編, pp.471-509. 設楽町.  
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.  
新海栄一, 2017. 日本のクモ増補改訂版, p.208. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.327. 東海大学出版会, 神奈川.  
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.235,529. 東海大学出版会, 神奈川.

(緒方清人)